

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援リトルスター			
○保護者評価実施期間	2025年3月17日 ～ 2025年3月31日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	12件	(回答者数)	8件
○従業者評価実施期間	2025年3月17日 ～ 2025年3月31日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5人	(回答者数)	5人
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 5月 26日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子ども達の社会性にアプローチした集団活動と、1人1人の発達状況に応じた個別活動を提供できるよう努めている。	家庭や園生活の「今」だけではなく、就学後の学校生活など少し先の将来を見据えた支援を意識しています。子供たちの成長に合わせ、プログラムが固定化しないよう、活動内容・支援方法についての相談・見直しをしている。	構造化の見直し、訓練用具や内容の充実を図り、子ども達の支援方法が広がるよう取り組んでいく。
2	活動フロア、機能訓練室、屋上（人工芝）など広々と活動できる環境があります。活動内容によって空間の使い分けができるので安全、快適に過ごせることが出来ている。	子ども達の活動に応じ、フロアや畳間、個別室と過ごす空間を変えています。運動遊び、テーブル活動をする児童同士が接触しないよう、安全を確保した空間利用を心掛けている。	屋上遊びの充実や、庭を手入れしお花やお野菜を植えるなど、植物の成長や季節を感じるを提供して行く。
3	保護者および関係機関との連携を大切にしている。	日々の送迎やお便り帳、LINEなどで気になる事の発信をしています。送迎対応などは、保護者就労や困りごとに合わせ可能な限り寄り添えるよう工夫と提案を行っています。また定期的に保育園・こども園との面談機会を設けたり、行事・活動等の情報共有を行い統一した支援・声掛けが出来るよう心掛けている。	こども園や保育園訪問や、事業所参観を促すことで相互理解をより深めていく。

	事業所の弱み(※)と思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	就学先である小学校との直接連携は弱く、移行支援への不足がある。	事業所側の介入のタイミングが難しく、保育園・こども園任せになってしまっているように感じる。	小学校訪問を行い、就学先の学校の特徴や環境を知る事で、より充実した、先を見据えた支援につながると思います。また本児の特性に合わせた効果的な伝達方法などの情報発信をしていく。
2	家族行事や勉強会、交流会の行事開催をしていますが、ご家族の参加率が低い。	日程の調整が合わせにくい、勉強会や行事内容のニーズが保護者と合っていない。	日程の伝達は十分な期間を設け事前に通達し、調整しやすいよう配慮する。 行事内容の詳細や過去の様子を発信するなど、参加したいと思ってもらえる発信を心がける。
3	事業所の体制やマニュアルなどの周知不足が多い。	マニュアルや相談体制、家族行事などの発信力が弱く認識してもらえていないものも多い。また発信機会がなく説明・周知できていないものも多い。	面談など説明機会の場を設ける。 事業所単体のお便りの発行などより細かに伝わりやすい発信を心がけていく。